

第2号議案

平成30年度 事業計画 及び 収支予算

【 事業計画 】

当会の平成30年度事業計画としては、各種警備活動・災害警備への支援、全国にわたる交流激励会開催、海外研修支援など、恒例の激励支援活動を更に充実していくことに加え、平成31年度から32年度にかけ、東京オリンピック・パラリンピックなど一大行事が目白押しであり、まずは現在想定される4件の特別大規模警備支援への対応について、特別寄附も含め、警備支援に万全を期するための準備の1年と位置付ける。また、会の存立基盤の再構築に向け、引き続き、新規会員獲得の活動を強力に展開していく。

①機動隊員等に対する激励支援

・警備活動及び災害警備への支援

平成30年度については、現在のところサミットのような特別大規模警備支援の予定は無い。

大規模警備支援としては、例年通り、広島平和記念式典（広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式）、長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典、及びその他地域に対する警備支援を継続していく。

更に近年、大規模な地震・風水害が多発する傾向にあるが、災害警備支援にも、タイムリー且つ効率的に対応すべく、本部・支部間の緊密な連携・調整に努める。

・会員と機動隊員との交流激励会

東京本部と全国8支部において、会員と機動隊員・警察幹部との交流激励会を引き続き開催し、隊員の激励と相互理解に努める。なお災害により機動隊員が突然警備支援に派遣される場合には、開催日程につき柔軟に対応していく。

・文化体育活動

全国優秀機動隊員として警察庁警備局長から表彰された約100名の機動隊員による海外警備事情視察・研修に対してこれを支援し、その資質向上に資する。

・機動隊をはじめとする警察の各種行事への激励・支援

機動隊視閲式・警備訓練、更には武道大会などの各種行事に当会役員や会員が出席し、これを激励する。特に支部段階での各種行事への参加を一段と活発化させるべく、本部から支部への協力・支援を強化していく。

②弔意・見舞活動

全国殉職警察職員・警察協力殉難者慰霊祭に理事長が出席するほか、機動隊員が警備中または訓練中に殉職・負傷された場合、弔意・見舞活動を行う。

③普及・啓蒙活動

機関紙「はげまし」を例年通り年 11 回発行し、その内容充実に努めると共に、本部・支部の総会・激励会などについて、活動状況を PR することにより、広く国民各位に対して遵法精神の高揚を図る。また、会員・機動隊員双方にとっての「読者参加型」の企画を増加させていく。

当会のホームページについては、都度の話題をタイムリーに掲載するなど、その内容充実に努めていく。また、創設 40 周年を迎えたことを機に、過去の総ての機関紙につきホームページへの掲載を終了したが、引き続き新規号も掲載していく。

④朝食講演会

例年通り、朝食講演会を年 10 回（6 月と 8 月を除く）開催し、その講演録を機関紙「はげまし」に掲載することで、全国の機動隊員及び会員の知見に役立てる。

幸い出席者数は高水準を維持してきており、若手層をはじめとした出席者数の更なる拡大を図ると共に、魅力ある講師の探索につき会員各位のアドバイスを求めていく。

⑤組織の強化活動

個人会員について、平成 28 年度上期には、会発足以来初めて 1,000 名の大台を割込む事態となり、平成 29 年度には、多くの会員のご協力を頂いて、個人会員拡大強化期間として会員増加に会一丸となって取り組んだ結果、半年で大台回復を果たした。しかしながら、こうした取り組み期間においても、一方では、退任・退職、高齢、死亡を理由とする脱会が続出しているのも事実である。ご承知の通り、当会は発足以来 44 年を迎えるが、この長い歴史の中で、個人会員の着実な伝承、若返り化が遅れたものと痛感し、強く反省しているところである。言うまでもなく、当会諸活動の一層の充実と財政基盤の安定には、経常収入の過半となる会費収入の維持・増大が不可欠であり、会員数の維持・拡大は永遠の課題であると改めて認識しているところである。

【 収支予算 】

平成 29 年度の会費収入は、会員拡大活動により前年度を約 100 万円上回ったが、30 年度もこれを可能な限り維持すると共に、この増加分を大規模警備支援の支出等に当てて、支部段階での警備支援活動の強化・充実に繋げていきたい。また引き続き、事務費用の削減に努めることを前提に、何とか赤字回避を目指すこととしたい。

また、本理事会で決議予定の特別寄附（「2019/20 特別寄附」）については、平成 30 年度に募集活動を展開し、寄附収入が発生することとなるが、現時点ではその総額を想定することが難しいこと、一方で、この寄附収入を財源とする支出は平成 31 年度以降となることから、この予算案では盛り込まないこととした

なお、平成 30 年度予算においても、念の為、1,000 万円を限度として、「はげまし基金」の取り崩し枠を設定することとする。

平成30年度 収 支 予 算

(2020寄付収入を除く)

科 目	(単位:円) 30年度予算	(参考)		29年度決算
		29年度予算	30予算-29予算	
経常収益				
受取会費	35,600,000	35,100,000	500,000	36,165,000
講演会参加料	3,500,000	3,500,000	0	3,642,000
激励会参加料	9,000,000	9,000,000	0	9,367,500
賛助広告料	5,200,000	5,200,000	0	5,520,000
雑収益	200,000	200,000	0	303,345
受取寄附金				1,913,000
経常収益計	53,500,000	53,000,000	500,000	56,910,845
経常費用				
弔慰見舞金	0	0	0	0
大規模警備支援費	1,500,000	1,000,000	500,000	1,000,930
特別大規模警備支援費	0	0	0	0
文化体育活動援助費	8,400,000	8,400,000	0	8,140,730
交流激励会活動費	17,200,000	17,000,000	200,000	18,149,345
機関紙発行費	5,900,000	5,900,000	0	5,937,146
カレンダー発行費	1,150,000	1,150,000	0	1,133,900
会議費	5,700,000	5,700,000	0	5,490,035
給与手当	7,000,000	7,000,000	0	6,952,304
福利厚生費	1,200,000	1,200,000	0	1,113,512
旅費交通費	2,000,000	2,000,000	0	2,010,140
通信運搬費	700,000	700,000	0	705,200
消耗品費	700,000	700,000	0	425,087
新聞図書費	250,000	250,000	0	214,869
印刷製本費	250,000	450,000	△ 200,000	418,556
賃借料	850,000	850,000	0	911,088
諸謝金	400,000	400,000	0	430,120
租税公課	70,000	70,000	0	70,000
支払手数料	200,000	200,000	0	157,928
雑費	30,000	30,000	0	28,375
			0	
経常費用計	53,500,000	53,000,000	500,000	53,289,265
当期経常増減額	0	0	0	3,621,580
当期一般正味財産増減額	0	0	0	3,621,580